

中国四国地区予選会 観戦ガイド
ALL-JAPAN UNIVERSITY EKIDEN

伊勢で決まる、日本一。

秩父宮賜杯 第47回 全日本大学駅伝



本日は秩父宮賜杯第47回全日本大学駅伝対校選手権大会中国四国地区予選会にご来場いただき、誠にありがとうございます。この予選会は、全国の精鋭25大学が「駅伝日本一」を懸けて競う11月1日(日)の本大会(名古屋～伊勢)への出場につながる重要な一戦です。学生たちの熱走に、ご声援よろしくお祈りいたします。

本予選会の見どころ

中国四国地区の代表として伊勢路へ進めるのは今年も1校。その狭き門を目指して11校が10kmのクロカンレースで争う。昨年は広島経済大学が本戦に出場しており、そのメンバーの多くが残る今年も優勝候補の筆頭。5月の中国四国インカレでは大下浩平と江藤佑太が5000mでワン・ツーを飾るなど、勢いもある。対するはこの予選会で前回2位の広島大学。中国四国インカレで10000mを制した井野口慎之輔、同5000m5位の細川誠司のダブルエースを軸に2年ぶりの伊勢路を狙う。前回3～5位の環太平洋大学、愛媛大学、岡山大学は昨年の経験者が多く残り、`2強`が崩れるとチャンスがありそうだ。中国四国インカレ3000m障害優勝の松本光司を擁する山口大学、戦力の充実する高知大学なども争いに加われるか。

参加資格 平成27年度中国四国学生陸上競技連盟登録者からなる大学単位のチーム(1チーム11人)

選考方式 ①10kmレース(1周2.5kmの周回コース)とする。②1チーム11名が出走し、上位8名の合計記録で順位を決定する。
③上位1チームを第47回全日本大学駅伝対校選手権大会の中国四国地区学連代表として推薦する。

第46回大会中国四国地区予選会 (2014年9月14日)

1位	広島経済大学	4:12:06
上位1校が全国大会出場		
2位	広島大学	4:15:09
3位	環太平洋大学	4:19:03
4位	愛媛大学	4:22:16
5位	岡山大学	4:23:56
6位	山口大学	4:27:16
7位	至誠館大学	4:31:12
8位	広島修道大学	4:32:04
9位	高知大学	4:32:15
10位	鳥取大学	4:34:30
11位	福山大学	4:35:20
12位	島根大学	4:37:22

第46回本大会成績	1位	駒澤大学	5:14:36	10位	神奈川大学	5:25:36	19位	大阪経済大学	5:38:58
	2位	明治大学	5:17:23	11位	日本体育大学	5:26:11	20位	広島経済大学	5:41:53
	3位	青山学院大学	5:17:24	12位	京都産業大学	5:26:26	21位	中京大学	5:42:01
	4位	東洋大学	5:18:09	13位	上武大学	5:27:25	22位	信州大学	5:42:08
	5位	山梨学院大学	5:21:02	14位	中央学院大学	5:27:53	23位	東北大学	5:47:08
	6位	東海大学	5:21:27	15位	城西大学	5:28:33	24位	第一工業大学	5:48:24
	7位	早稲田大学	5:22:33	16位	関西学院大学	5:28:49	25位	札幌学院大学	6:04:28
	8位	大東文化大学	5:23:26	17位	立命館大学	5:29:04	オープン参加	東海学連選抜	5:38:17
	9位	順天堂大学	5:25:15	18位	京都大学	5:35:36	※上位6校が47回大会のシード権獲得、■=中国四国地区代表		

がんばれ
大学駅伝

JAバンク

中国四国地区予選会 観戦ガイド

ALL-JAPAN UNIVERSITY EKIDEN

出場大学コメント

今大会に懸ける意気込み

<p>広島経済大学</p> 	<p>前回大会では優勝し、中四国の代表として全日本大学駅伝に出場することができました。しかし、決して良いタイムではなく、満足のいく結果ではありませんでした。自分たちの持っているすべての力を出し切れなかった部分があるので、今年は昨年を上回るタイムで優勝を目指します。そして、本戦である全日本大学駅伝では、他の地方の大学と競り合う走りをしていきます。</p>
<p>広島大学</p> 	<p>前回8年連続の優勝を逃したので、今回はその雪辱を果たしたいと思います。目標は優勝ただ1つです。今シーズンは中四国インカレの10000mを制した井野口慎之輔を筆頭に多くの部員が自己記録を更新し、勢いに乗っています。予選会に出場する11名中9名が今季自己ベストを更新という勢いのあるメンバーを揃えることができました。総合力と選手層の厚さを活かし、サポートして下さる方々とともに優勝を勝ち取ります。</p>
<p>岡山大学</p> 	<p>岡山大学陸上競技部は、本選考会で総合3位を目標にしています。昨年の5位という悔しい結果から1年、ここまで選手1人1人は自分に何が足りないのかをしっかりと考えて練習に取り組んでまいりました。今年は課題であったチームの底上げにも成功し、昨年以上に層が厚くなったと実感しています。選手一同、目標に向けて自分たちがこれまで積み上げてきたことに自信を持って走りますので、応援よろしくお祈いします。</p>
<p>環太平洋大学</p> 	<p>それぞれにテーマを設定した3回の強化合宿でチーム全体の課題であった距離への不安を解消し、アップダウンに対応する力を養いました。エース・藤井圭太の成長と島田舜平の復帰、ルーキー・三井田陸斗の復調など、上位陣が好調です。加えて、着実に練習を積んできた渡辺稜二郎、高田宏一、三好翔太ら下級生が着実に走れば目標タイムに手が届くはず。勝敗は不確実なものですので、まずは今の力を確実に発揮することに集中します。</p>
<p>山口大学</p> 	<p>今回の予選会の目標は総合で3位に入ることです。近年はメンバーを11人揃えるだけでギリギリの状態、チーム上位と下位のタイム差が大きく、なかなか満足のいく結果が残せませんでした。しかし、今年は1年生が8人加わり、チーム内の競争も生まれ、総合力はアップしていると思います。メンバーの11人中5人が1年生と経験面では劣りますが、実力と経験のある上級生が引っ張り、チーム全体で目標達成に向けて最後まで走り抜きます。</p>
<p>鳥取大学</p> 	<p>私たち鳥取大学陸上競技部は今年多くの新生が入り、活気が溢れています。上級生も下級生の勢いに負けないよう力をつけてきました。また、今年の夏は合宿を2回行い、例年になく充実した練習が積み重ねました。全日本大学駅伝選考会では昨年の10位を超えられるように頑張りたいです。チームのアピールポイントとしては1年生の物怖じしない走りや上級生の粘り強い走りで、</p>
<p>愛媛大学</p> 	<p>前回4位のメンバーが8人残り、実績のある1年生も加入し、十分昨年を上回る結果を残せる戦力がそろっているのではないかと思います。昨年は目標以上の結果が出て、選手に自信が生まれました。今年はその自信を確信に変えるような、道後山に強い愛媛大学の走りができればと思います。中四国選抜として2年連続出雲駅伝の出場江浪修平を軸に、今年も集団走で1人1人が力を出し切って、愛媛大学過去最高順位の3位を目標に頑張ります。</p>
<p>高知大学</p> 	<p>今年は駒井説夫部長と宮本隆信監督の新体制のもと、旧来のチーム運営やトレーニングプログラムをすべて見直しました。少数精鋭の本学は全員のベストパフォーマンスの発揮とその先にある栄光を目指して、世界の長距離界における成功例を研究し、特殊な補強と技術練習を導入し、例年の2倍以上のハードワークをこなしました。さらに本格的な高地合宿も行うなど、高知大50年の歴史上最大の力を発揮する状態を作り上げて選考会に臨みます。</p>
<p>広島修道大学</p> 	<p>今年のチームは4年生が1人もおらず、3年生主体のチームです。ずば抜けて速い選手はいませんが、その分総合力でカバーして勝負していこうと思います。この予選会のために夏場しっかり走り込んできたので、その成果を発揮できるように頑張ります。応援よろしくお祈いします。</p>
<p>広島市立大学</p> 	<p>昨年までの主力であった上級生が卒業し、メンバーをなんとか集めるだけで精一杯で、メンバーのほとんどが下級生というチームでの参加になります。予選を勝ち抜くことができるようにメンバー全員で目標を共有していきます。まだまだ若く、力のないチームですが、この大会だけでなく、1人1人がこの先の大会に向けての自信につながるような走りをする、全員が自己ベストのタイムで走ることが目標です。</p>
<p>徳島大学</p> 	<p>徳島大学は第42回大会以来の2回目の出場となります。今年は1年生を中心とした若いチームとなっています。今大会に向けてチーム一丸となって、選手1人1人が練習に取り組んできました。その成果を発揮できるように、自分たちの力を精一杯出し切り、1つでも上の順位となるように頑張りたいと思います。若いチームらしく臆せず、攻めの走りを貫いていきます。</p>